

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さくら苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254-2
記入者名 (管理者)	福田 ムツ
記入日	平成 20年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気くばり・目くばり・心くばり、心に優しい介護、ゆっくりとゆったりと・・・、お一人お一人のあるがままを大切に心のこもった介護を目指します。」という理念をつくりあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビングに掲示し、会議やミーティングでの取り組みをしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には申込日において理念の説明をしている、又開設時の内覧会において地域の人々に説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩時などには挨拶を交わしたり、畑の野菜や花を頂いたりして、良い関係を築いている、又行事等の時には声をかけ参加してもらうようにつとめている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の行事には参加を呼びかけ交流に努めているが、地域の行事には参加することが出来ていない。	○ 地域行事にも積極的に参加し、より深い交流に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>施設行事の際は、地域の敬老会の方たちにも参加を呼びかけ気軽に立ち寄れるよう努めている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回が初めての評価であり、まだ評価の具体的内容が職員全体で理解出来ていない。</p>	○	<p>今回の評価を活かして職員全体で検討し改善に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>施設の運営状況や評価の日程などを報告し、話し合いを行いサービスの向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の担当者とは連絡を取り合い、必要な時は訪問し指導や情報を受けている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>この制度を必要な人がいないため活用していない、又理解している職員も少ない。</p>	○	<p>必要な人には支援ができるよう、全職員が制度について勉強をしていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング等で利用者との接し方、話し方について話し合いを行っているが、法律の理解が出来ていない。</p>	○	<p>研修会への参加や、勉強会を実施し理解を深めていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いのもと、家族の方が納得された上で、契約、解約を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の声に耳を傾け、その都度話し合いを行っている、又ご意見箱を設置している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際、管理者又はホーム長が状況報告をし、事務担当より預かり金を領収書と共に報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方等が面会に来られた際に話をし、意見等を出し易い環境づくりに努めている、又ご意見箱を設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気付きノートを設け、意見や提案を出してもらい、ミーティングや会議など話し合う機会をつくり、サービスの向上に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	十分な職員の確保ができ、緊急時にも柔軟な対応ができています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人内事業所へのやむを得ない異動はあったが、利用者への配慮に努めている。	○ 運営者、管理者、職員が十分に協議し、最小限に抑える努力をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が、研修会への参加や、資格の取得ができるよう推進している。	
20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時には、同地区のグループホームで研修をさせて頂き交流を深め、サービスの向上に役立てる事ができた。	<input checked="" type="checkbox"/> 引き続き相互交流を深め、他地区の同業者とも交流する機会を増やしていきたい。
21	<input type="checkbox"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に1～2回のミーティングや個人面談を実施し、話し易い環境づくりに努めている、又休憩時間と休憩室を設けストレス軽減に努めている。	
22	<input type="checkbox"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力を活かせる勤務配置を行い、意欲のある職員には資格取得のための環境づくりをしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<input type="checkbox"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申込前や申込時には極力利用者本人にも施設の見学をしてもらい、本人と話す機会をつくり信頼されるよう努めている。	
24	<input type="checkbox"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接や施設の見学等を行い、家族の不安や希望を聞き、受け止める努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見て、併設のデイサービスや宅老所の利用の案内もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人を一人にしないよう心がけ、安心して生活できるよう話をし、他の利用者との関係づくりの支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩という気持ちで共に生活し、一緒に作業を行うことで利用者に教えてもらう事も多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の生活の様子や心配事などを報告し、共に支援していくことを心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会などに来られた際には、本人と家族が笑顔で話をされ、家族の方が安心して帰られるような支援を心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会が多いが、自宅などへの外出が一部の利用者のみになっている。	○	入所前まで暮らされていた場所への訪問「ふるさと訪問」などを計画している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席替えをしたり、ソファーを置くなどして、利用者同士が会話しやすい環境づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居された後も、利用者や家族からの相談等に応じ細々とだが関わりを持っている。	○	転居される際、利用者や家族には継続的な関わりを持って行けるよう説明している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、安全性を配慮した上で本人の希望する暮らしが出来るよう支援を行っている。	○	困難が発生したときは、ご家族に連絡を取りつつ協力を得て支援を継続(ご家族の負担を最小限に止める)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所のときに利用者1人ひとりのこれまでの生活歴、経験や出来事を知り、それを活かした支援を行っている。	○	面接だけではその人の生活環境がなかなか見えない、家庭訪問等を取り入れて行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者が楽しみごと等を見い出せるよう、また残存機能維持を保つ場面づくりの支援を行っている。(食器洗い、洗濯物たたみ、テレビ番組、カラオケなど)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ、介護職、介護支援専門員、看護職と検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示し、その期間が終了する際に見直しを行うこと、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの変化を具体的に記録し情報伝達を確実に職員に伝わる仕組みをとり介護計画の実践見直しの参考としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ベランダや外回りを入居者が活動し、楽しむことが出来るように活かしている。(食事、おやつ、物干し、草取り)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの訪問(踊り、歌、演劇)は年に数回あるが他の機関との協力までには至っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同業者、他の事業所の情報も少なく活用、支援に至っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、相談、助言を受けている、また運営推進会議に毎月参加した時に情報交換の場を設けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師に定期的な往診を受けている、また希望する医療機関がある場合は医療が受けられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	開設より現在まで入所段階での利用者、家族の終末期の意向確認がとれていない、これからはグループホームも看取りまでの方向になることも考慮に入れ取り組んでいきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	タミナルケアの支援内容を身体的ケア、精神的ケアのそれぞれ具体的にあげ、またかかりつけ主治医からの助言、指導を受けよりよい看取り介助ができるよう全員で学習会を設けて行っていく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の過去の生活歴を十分把握した上で、人格を損ねる事のないよう接遇に注意して対応している。また、個人情報 は棚の中に鍵をかけ管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の話を傾聴する事を常に心掛け、一人ひとりの思いや要望を引き出し、自己決定の出来る環境をつくるように努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況に対応して、柔軟な対応を心掛け、本人の要望にそった支援をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節や天候に応じて本人の好みや、その人らしさを大切に選択の支援をしている。また、本人の要望にそって希望する美容室への送迎の対応をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に事業所の畑で果物を取り、その日の献立にそえたりしている。食事中は楽しい会話を心掛けている、また、片付けの手伝いを利用者の方としている。	○ 季節の花や野菜作りを利用者と計画し実行して、育てる楽しみ食する喜びを共有するよう、畑の活用をしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は、健康状態や個々の状況に応じ、希望にそうようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄機能やパターンを把握し、一人ひとりに合った言葉掛けや誘導を行い、出来るだけおむつ使用を減らし本人負担を軽くするよう取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯の希望は、利用者の決定で行っている。出来るだけゆっくりと入れるように心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝や休息は、個々の希望で、その人の状況に応じた場所で、気持ちよくとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時や片付け、美化等、生活歴を配慮した役割、外出の楽しみ気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、買物等の機会をふやし、お金を所持する大切さや、楽しみを理解させるようにしているが、現状は二人のみの利用者が所持している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望にそって職員の付き添いで、戸外での散歩や花摘み、バルコニーを利用したの催しをしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	無理のない外出を、折を見ては行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人との手紙の交流は少ないが、本人の要望に応じ電話のやり取りは出来るように支援している。	○	絵手紙等を作成したり、楽しみながら外部との交流を深めるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人の訪問では、居心地よく過ごせるよう空間作りに配慮し、お茶や菓子の提供をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法に基づいた行為を、職員全体が理解し、センサー等を置き、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害の理解はしているが、現状においては難しい事もあり安全の為に、やむおえず玄関への施錠を行う事もある。7月までは利用者のお一人の問題行動が多く、他利用者の居室へ勝手に入れないよう鍵をかけていた(居室内に利用者が居られない時)が、現在は使用していない。	○	玄関にセンサー等を置き、鍵をかけないケアに取り組んで行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全な生活が出来るように人員配置など確保し、夜間帯は頻繁に見回りを行い、利用者の状況把握をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物は職員間で管理を怠らないように気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火訓練や、救急の場合の対処方法を学び、職員間の連携の意識付けをしている。また、誤飲や窒息を防ぐ為に、個々に合った食事の状態を心掛け提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師が常勤でない為、不在時の急変に備えて、毎月のミーティング時、応急手当のやりかたや、急変時の初期対応の仕方等、話し合ってノートに記録し、いつでも見られる様にしている。	○	定期的な実施訓練は行っていない為、今後は取り組んで行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、管内の消防署に指導、点検を受けて消化訓練、避難訓練、通報訓練などを行っている、地域の協力については、近隣の方をお願いし協力を得られる体制を取っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時に、現在の状況を説明している、また、認知症の進行や下肢筋力の衰えに伴い転倒など事故のリスクは高くなり、その防止対策の為環境設備や平行棒による歩行訓練、ストレッチ体操など下肢筋力低下の予防に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル(体温、脈拍、血圧)測定や、排尿排便チェックを毎日行っており一ヶ月毎の表にまとめ職員全員が把握でき、異常を早期発見出来るようにしています。また体調変化や異常があった場合は、カルテに内容対処法など詳細を記録している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬用ノートに現在服用している薬の名前、効能注意事項を添付して、職員がいつでも確認出来るようにしている。毎日の薬は看護士が管理し、一日分ずつセットして服薬が確実に出来るようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェックは毎日行い把握し、時間を決め声掛けをトイレ誘導する。腹部マッサージや運動など行う。食事やおやつ時牛乳やフルーツ食物繊維の多い食材を選び、摂取していただくなど心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがい・歯磨きは、声掛けや介助を行っています。義歯の方は就寝前に洗浄剤につけ置きを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理員を二名配置し、常に栄養バランスの取れた食事、また、一人ひとりに合わせた摂取しやすい食事(軟飯、軟菜、お粥、きざみ)を提供している。トロミアップなども利用している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や、対処法の資料に目を通し、勉強会などにも参加し知識を深めている、また、職員や、利用者の方がいや手洗い、消毒スプレーなど感染症予防に努めている。外来のお客様にも消毒スプレーを実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理室には、薬用石鹸、消毒スプレーなど設置している、また、除菌用アルコールなど使用し調理室や調理器具などを清掃、清拭し衛生管理に努めている。食材は新鮮で安全な物を毎日提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーを考慮して、スロープにしたり段差をなくすなど入り易くしている。また、玄関前には季節に応じた花を、職員や利用者と相談し植え、季節感を感じられる様工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの場所も広めにスペースをとってあり、ホールやテラス居室居間から外を見渡せば、季節に応じた木や花が見られる(栗、桜、もみじ、かきなど)環境がある。時期時間によっては遮光様用カーテンやロールブラインドがあり状況に応じた対応をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には和室があり、お茶を飲みながら談話をされたり、疲れたら横になるなどして利用されている。ホールでは、カラオケでみなさんと楽しくすごされたり、マッサージチェアに座り、独りでのんびりと過ごす時間も持たれている。暖かい日にはテラスにて外を眺められ、季節を感じながらお茶を飲み談話して過ごされる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていたダンスなどは、居室の広さが関係するため持ち込まれていないが、ベッドなどは持ち込まれている。整理ボックスの上には家族写真や大好きなぬいぐるみ、本人手製の小物など家族の方が面会に来られた時に持ち込まれたりされていて利用者にはとても喜ばれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場は窓を全開にし自然の風やエアコンなどで対応している。冬場は暖房器具を使うため時間を決め、窓を開け換気を行う。加湿器などを使用し室内が乾燥しないように心がけている。各ヶ所には換気扇が設置してあるため、職員が定期的に操作している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所には手摺が取り付けられており、バリアフリーで段差をなくし、歩行しやすくなっている。廊下やトイレ居室入り口も、車イス使用でも可能な構造になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎月カレンダーを作りを利用者と職員が協力して作成している。色塗りが得意な方や、手が不自由で色塗りが出来ない方はのり付け作業、はさみで切るなどしてその方の得意分野を活かし無理強いせずゆっくり時間をとり楽しく作成している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには季節に応じた木や花があり、時期になれば栗拾いやかきとり、葡萄がりなど楽しむ。また、建物内のテラスには車いすの利用できるので、桜の花見や紅葉狩りなど楽しめるので日光浴をしたり、時にはお弁当などを作り、テラスで昼食を取るなどをしている。気分を変えての食事にみなさん喜ばれている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気味わえるような空間を設けている。 緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、常に玄関前には季節の花を絶やさないようにしている。 まだ幼木ではあるが施設の名前の由来にちなみ、たくさんの桜の木を植え込んでいる。広い畑も確保している。草花や季節の野菜、果物など、利用者様と共に育て、楽しめるような機会を多く作りたいと思っている。